

授業ではしっかり発言者の言葉に耳を傾けます



言い出しっぺの一人であり、事務局長の榊原幸雄さん

地域づくりのための 人づくりが発端

「年齢や地域の枠を超え、人生の豊かさや新たな価値観を見出したい」と、おもしろ人間が集うグループの活動が27年目に入ったと聞き、その魅力や継続の秘訣を知るべく訪ねてみました。

この集まりは「おもしろ人立めだかの学校」です。「誰が生徒か先生か」という歌詞の通り、3カ月に1回開校される授業は、毎回校長・教頭・用務員と授業を行う先生が入れ替わり、進行役と授業の先生を担当します。内容は



旬の食材を活かした弁当は給食当番の手作り

れぞれの得意分野を披露したり、気になる話題を掘り下げたり、ときには体験実習があったりと実に多彩です。

そして通常授業では毎回給食当番が早めに学校に訪れ、リーダーを中心に手分けして料理をするのが恒例。出来上がった弁当は、給食時間に皆で一緒に手を合わせ、「いただきます」をしてから楽しい会食が始まります。

めだかの学校がスタートしたのは平成

「おもしろ人立めだかの学校」 27年目に突入したその魅力とは!?

んです。

榊原さんは当時「サラリーマンではない違った人生を歩きたい」と定年を待たずに従事していた会社を退職。遊休施設になっていた自然休養村センターの支配人として第二の人生をスタートさせたばかり。その想いを授業で発信したのです。

以来、めだかの学校の開校は途切れることなく27年目に入り、先の9月には通算105回は特別授業として小國神社大宝殿を会場に開催されました(現在通常学校拠点は森町一宮)。



105回の特別授業は小國神社で実施

人格・技量を尊敬し合い 「共に育む」

授業のみならず、ときには特別企画のイベントもさまざま開催。全国各地の仲間の元を訪ねる遠足、チャリティコンサート、講演会、新浜松市が誕生



水源まつりのイベントでは筏乗りも体験した

した時には「都田川水源まつり&菜の花プロジェクト」をいなさ湖野外ステージで実施しました。そして10周年、15周年、20周年の節目には、長年交流を深めた全国の仲間たちも駆けつけ、記念事業を行ってきたのです。

「やるとなれば、めだか生の皆が力を合わせて作り上げるのが特長。やり終える毎に絆を深め合って今があるのだと思います」と榊原さん。継続の秘訣を伺うと「生徒も先生も上下関係を意識しないで、お互いの人格や技量を尊敬し合うことが基本に流れる精神」。好奇心と遊び心を持って集まりますが、人が話しているときに無駄話をするような生徒がいれば、「静かに」としっかりと注意し合える空気感もめだか生がまとまる理由のようです。

そして「共育期間」として生徒の資格を持つのは1年間。続けたい人は毎年更新し、手続きの無い者は名簿から削除されるシステム。「こうした自主性を重んじる集まりが心地よく、長い付き合いになるようです」と長年のめだか生たちも笑顔で話します。

授業の最後は参加者が輪になって「今日の日はさようなら」を斉唱し、握手し合ってお別れ。めだか生一人ひとりの心の輪(和)が象徴されているように感じられます。

取材協力/榊原幸雄さん ☎080(1612)9130。※めだか生になるには在校生の推薦が必要ですよ



最後は輪になってお別れするのが恒例です